

■■■Q&A 全国障害者スポーツ大会出場に関して スポーツ大会（地域）と精神障がい ■■■

全国障害者スポーツ大会は、**障害者（手帳原則）の「社会参加のスポーツ祭典」**です。クラブチームのスポーツ競技大会ではなく、**都道府県・指定都市の住民の対抗スポーツ祭典**です。**都道府県名・指定都市名のユニフォーム**で参加し、**都道府県・指定都市名での応援**をします。

Q1 全国障害者スポーツ大会とはどのようなものですか？また、精神障害者が出場できる競技はありますか？

A1 身体・知的障害者は長年、全国大会が開催されており、二障害が統合された公的な大会として平成13年に第1回全国障害者スポーツ大会が開催されました。障害者スポーツの祭典事業であり、国民の障害に対する理解と、障害者の社会参加の推進を目的としています。その年の4月1日現在13歳以上の障害者が、都道府県および指定都市の選手団として出場します。精神障害者の出場種目は、平成14年からオープン競技として始まった団体競技のバレーボールが平成20年に正式競技になりました。また令和元年から個人競技である卓球にも出場枠があります。

Q2 全国障害者スポーツ大会では、身体障害者や知的障害者の競技種目数が多く、精神障害者が出場できる競技種目は少ないように思いますが、なぜですか？

A2 全国障害者スポーツ大会は全14種目（個人7種目、団体7種目）、選手団5,000人（役員含む）の規模です。精神障害者が出場できるのは、バレーボール、卓球競技のみで、最大200人程度です。精神障害者がスポーツになじみ始めたのが歴史的に遅く、身体・知的障害分野より後発でした。また、競技団体も設立されていないこともあり、他障害分野より種目数や選手出場枠が少ないのです。

Q3 全国障害者スポーツ大会のバレーボール競技に出場するチーム（選手団）はどのように選ばれるのですか？

A3 団体競技は、全国大会開催地の都道府県と全国6ブロックの代表各1のチーム（都道府県あるいは指定都市選手団）が出場できます。毎年春夏に開催されるブロック予選会には、各都道府県及び指定都市のチームが出場できます。その前段では、各都道府県及び指定都市の代表を決める予選会がある場合や、都道府県及び指定都市の予選会はなく、選抜チームが都道府県及び指定都市の代表としてブロック予選会に出場している地域もあります。なお、開催地はブロック予選会を経ずに1チーム出場できます。

Q4 ブロック予選会や全国障害者スポーツ大会に出場する場合には、金銭的な自己負担が発生しますか？

A4 ブロック予選会への派遣については、派遣元である都道府県あるいは指定都市によって補助金の比率が違います。よって、あまり自己負担がいない自治体もあれば、かなり自己負担が必要になる自治体もあります。全国障害者スポーツ大会は、都道府県あるいは指定都市からほぼ全額派遣費が支給されますので、自己負担はまずないと思われます。ただし、個人的な追加飲食や間食、土産代などは自己負担になります。

Q5 ブロック予選会や全国障害者スポーツ大会に出場する場合の選手団ジャージやユニフォームを準備するのに自己負担金が発生しますか？

A5 ブロック予選会に出場する時点から都道府県および指定都市が全額助成してくれることは少ないようです。全国大会に出場する場合は、選手団ジャージが無料で配付されることは多いですが、競技用ユニフォームについては、自治体によって補助割合が異なりますので、自己負担が発生する場合もあると思います。障害者スポーツ協会あるいは都道府県庁もしくは指定都市役所にお問合せください。

Q6 全国障害者スポーツ大会に出場することになりましたが、大会地のメディアが取材に来るのでしょうか？あまり映りたくないですが…。

A6 公的な祭典、全国レベルのスポーツ事業であり、観客に配布される大会プログラム冊子には選手氏名が記載されます。また開催地のメディア撮影や新聞取材等は必ずあります。選手の氏名を伴う記事や映像の場合は事前に了解を取られると思いますが、堂々と胸を張って映ってみてはいかがでしょうか。他の障害者仲間や世間の人に選手が頑張っている姿を見てもらうことで感動を与えられると思います。

■Q&A 全国障害者スポーツ大会 競技に関して 精神障がい ■

① 個人競技・卓球（精神） ②団体競技・バレーボール（精神）

Q1 全国障害者スポーツ大会で精神障害者が出場できるバレーボール競技や卓球競技は特殊なルールですか？

A1 （公益財団法人）日本パラスポーツ協会から毎春に発行されている「全国障害者スポーツ大会競技規則集」に競技規則（ルール）が掲載されています。バレーボール競技は、同年度の「公益財団法人」日本バレーボール協会競技規則（6人制規則）」に準拠していますが、ネットの高さやボールの仕様、男女混合である点は独自のものとなっています。卓球競技については、ほぼ、一般の卓球競技規則と同じものになっています。

Q2 全国障害者スポーツ大会団体バレーボール（精神）はなぜ普通の皮ボールではなく、ソフトバレーボール球を使うのですか？

A2 皮ボールは「痛い、きつい、怖い」と思う方も少なくありません。都道府県あるいは指定都市によっては、まだこの競技が十分に普及・振興されていない地域もあります。皮ボールにすると、拒否感から新しい競技者が増えないことも懸念されます。このような理由から多くの方がなじみやすく取り組みやすいソフトバレーボール球を使用しています。

Q3 全国障害者スポーツ大会バレーボール（精神）競技において、女性リベロのみが女子登録で、リベロがコートから出た場合はどうなりますか？

A3 リベロがコート外に出た時でも、コート上の選手 6 名のうち 1 名以上は女子選手がいなければなりません。なお、大会に出場する場合は、女子選手の怪我や欠場を懸念して、リベロでない女子選手を最低でも 2 名以上は登録しておくことで安心です。

Q4 全国障害者スポーツ大会バレーボール（精神）競技のネットの高さは 224cm とのことですが、女子選手には高くないですか？

A4 全国障害者スポーツ大会オープン競技・バレーボール（精神）当初、ネットの高さは 210cm でした。その後、競技技術が向上し、段階的に高さを上げて現在の高さに至っています。確かに女性には高いかもしれませんが、今より高さを下げると男子選手が簡単にスパイクを決めて一方的な試合運びになり、ラリーも続かず、女子選手がプレーできる場面が減ってしまう懸念があります。

■必読書「全国障害者スポーツ大会競技規則集」、「改訂版障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）」

■各競技団体競技規則（日本卓球協会制定日本卓球ルール、日本バレーボール協会競技規則（6人制規則））

202501 公益社団法人日本精神保健福祉連盟 スポーツ推進委員会・全スポ部会

